

# 丸山台中学校校歌

作詞 校歌作成委員会  
作曲 富澤 裕

今 はじまりのとき  
若葉あふれる 丸山の丘  
優しい風に 導かれ  
一期一会の このときを  
仲間と共に 歩み出す  
明日をえがく 丸山台中学校  
今 輝くとき  
青空の下 白き時計台  
さわやかな風 吹き抜ける  
百錬成鋼 意志固く  
確かに進む 我らを照らせ  
希望に満ちた 丸山台中学校  
今 羽ばたくとき  
紅く染まる 富士の頂  
希望の風に 夢をのせ  
勇往邁進 どこまでも  
広がる未来 果てしなく  
笑顔きらめく 丸山台中学校  
笑顔あふれる 丸山台中学校

## <校歌に込めた思い>

校歌全体を通して、入学してから卒業までという大まかなイメージで作った（1、2、3番がそれぞれ1、2、3年次を表すイメージ）。丸山台中学校での学校生活を送る中で感じる心情や環境の変化、成長や未来への思いを表現した。

1番から3番までそれぞれに丸山台中学校が連想される風景や景色を入れ、緑・青・赤の学年色を連想させる色が入っている。この3色は光の三原色でもあり、交わると光輝く。また、四字熟語を入れ、それぞれの歌詞（1、2、3番）の意味を強調した。新しい丸山台中学校のキャッチフレーズとしても活用したい。

### 1番：丸山台中学校に入学し、新しい仲間と共に進みながら、これからの決意を表している

「はじまりの時」とは、入学したときという意味もあるが、例えば何かの行事や卒業式など区切りで歌う時に「これから新しいことがはじまる」、または1番の出だしはいつも最初に必ず歌う部分なので、「いつもこの校歌を歌う時に、心機一転、新たな日々を過ごしていこうという前向きな気持ちを示す」という意味もある。「若葉」とは初々しい1年生のこと。

「優しい風」とは丸中の先輩、先生、保護者、地域の方々など関わっていくすべての人。

「一期一会」には一つ一つの出会いや時間を大切にという思いが込められている。

「明日」の正式な読み方は「あす」。「あした」と読むと、翌日の朝という意味になってしまうので2番、3番と同じ部分の文字数は合わないが、あえて「あす」と読んでいる。

### 2番：学校生活を送る中で努力し、成長しながら力を発揮していこうという思いを表している

「輝くとき」とは学校生活を送る中で、得たことを少しずつ発揮していくとき。校庭に立つ時計台が、私たちのことを見守ってくれている。

「百錬成鋼」とは心と体を何度も鍛えることで立派な人物になることができるということ。

「確かに進む我らを照らせ」の部分で、我らを照らすのは希望に満ち光り輝く丸山台中学校。

### 3番：丸山台中学校で得たことを生かして、未来へ羽ばたき、どこまでも高く突き進んでいこうという思いを表している。

「紅く染まる 富士の頂」とは校舎から見える、夕日に照らされた富士山の様子。丸中での日々で得たことを活かして、自分の目標や夢に向かってどこまでも突き進んでいくという力強い思いが込められている。